



Title	Trichoderma virideによるcellulase生合成における調節機構
Author(s)	申, 錫奉
Citation	大阪大学, 1979, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/32214
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名・(本籍)	申	錫	奉
学 位 の 種 類	工	学	博 士
学 位 記 番 号	第	4 6 0 3	号
学位授与の日付	昭和 54 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	工学研究科 醸酵工学専攻 学位規則第 5 条第 1 項該当		
学 位 論 文 題 目	<i>Trichoderma viride</i> による cellulase 生合成における調節機構		
論文審査委員	(主査) 教 授 市川 邦介		
	教 授 合葉 修一	教 授 田口 久治	教 授 芝崎 勲
	教 授 原田 篤也	教 授 大嶋 泰治	教 授 岡田 弘輔

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は *Trichoderma viride* による cellulase 生合成機構を究明する目的で、水溶性のグルコースあるいはセロビオースを炭素源として、*T. viride* の培養による cellulase 生成に関する研究をまとめたもので、序文と 3 章から構成されている。

序文ではセルロース及び cellulase に関する現在までの知見を述べ、本研究の必要性和その目的をあきらかにしている。

第 1 章では、水溶性基質による *T. viride* の増殖及び酵素生産に関する基礎的知見を得るため回分および連続培養を行なっている。回分培養で cellulase の生産はされないが、菌体内酵素である cellobiase はセロビオースによって誘導され、菌体増殖に比例して生産される。連続培養において cellulase 生産はグルコース基質ではみられず、セロビオース基質の場合、希釈率の低い範囲において生産され、希釈率と cellulase の比活性の間には負の相関関係を認めている。

第 2 章では、cellulase 生産におけるセロビオースの役割を検討している。グルコース基質で希釈率が低い連続培養の定常状態からグルコースにセロビオースを加えた基質に step change させ、新しい定常状態への動的挙動を調べた結果、短時間のおくれの後、cellulase が生産される。この結果から本菌による cellulase 生産はセロビオースによる誘導と catabolite repression との dual control 機構によつて支配されることを示唆している。

第 3 章では、dual control 機構に対する実験的検討および catabolite repression に対して論じている。catabolite repression はセロビオースの代謝速度によって支配されることが考えられ、セロビオースの資化をおさえるため、cellobiase 阻害剤である nojirimycin を培養系に用いて cellulase

の生産を調べている。セロビオースを基質として nojirimycin を添加した回分培養の結果、菌体増殖およびセロビオースの資化がおそくなり、catabolite repression からの解除によって、回分培養においても cellulase が生産される。以上の結果に基づいて、*T. viride* による cellulase 生産はセロビオースによる誘導と catabolite repression との dual control 機構によって支配されることを明らかにしている。

論文の審査結果の要旨

セルロースあるいはセルロース性廃棄物を酵素的に分解し有用な生産物を得るプロセスは工業的に注目されている。しかし cellulase 生成機構に対してはまだ解明されていない点が多い。本論文はセルロースの分解産物である水溶性セロビオースに着目し、cellulase 生成菌 *Trichoderma viride* を用いて cellulase の生成機構を検討したものである。

cellulase の生産パターンは菌体内の cellobiase とは異なり、セロビオースを基質とした回分培養ではみられず、連続培養で希釈率の低い範囲において生産され、希釈率と cellulase の比活性の間には負の相関関係があることを明らかにしている。cellulase 生産において希釈率が低い連続培養系での基質変換による応答からセロビオースが誘導物質であることを認めている。

T. viride による cellulase 生産がセロビオースによる誘導と catabolite repression との dual control 機構によって支配されることを提案し、cellobiase の阻害剤である nojirimycin を用いて catabolite repression をおさえたところ、cellulase 生産に顕著な効果が得られ、その結果から dual control 機構の妥当性を認めている。

これらの成果は微生物による cellulase 生成機構の解明に重要な知見を与えただけでなく、生物化学工学の進歩に対し、極めて有意義な内容を含んでいる。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。